

フォトエッセイ # 239

横浜市金沢区

泥亀公園の黒梅

金沢の八銘木の一つの黒梅が
泥亀公園で咲きました
見に行ってみてください

この黒梅は絶えて久しかったのを
寂聴さんの庭にあると知り
秘書さんをお願いして
出入りの植木屋さんの接ぎ木を
もらい受けたものなんです
・・・身近な人の話です

2026.2.14
島田祥生

α7c+Micro-NIKKOR 55mm



泥亀公園は
国道16号線沿いの
金沢区総合庁舎の敷地内にある
金沢文庫駅から徒歩10分くらい

そういえば
金沢文庫も称名寺も
行ってないなあ



今日は
ぽかぽかとしていいお天気
件の「黒梅」は満開でした

金沢八名木「^{くろうめ}黒梅」

ウメ「クロウメ」（梅「黒梅」）

学名 *Armeniaca mume* (Siebold et Zucc.) de Vriese 'Kuroume'

科名 バラ科


江戸時代の『^{じゅんれいものがたり}順礼物語（^{めいしゅわものがたり}名所和歌物語）』に初めて登場した時点から「^た今は絶えてなし」とあり、その後の『^{しんぺん かまくらし}新編鎌倉志』にも^{しょうみょうじ}称名寺境内に植栽^{あと}地跡が示されているのみです。

この木は、令和3年（2021）に瀬戸内寂聴の「^{せとうちじゃくちよう}曼陀羅山 ^{まんだらさん}寂庵^{じゃくあん}」から「黒梅」と呼ばれる紅梅の枝を譲り受け、接木増殖させたものです。
なお、他の復元した樹木同様、当時と同じ品種であるかは定かではありません。

流石銘木！！
いいお色
いいお姿

銘木復活
花を付けた時は
さぞ嬉しかったでしょうね





銘木と聞いているからではなく
本当に見飽きません

このようなカメラアングルも



大木に見えましたか
「ここまで大きくなった」と
喜んでいました

実物は
十分立派な立ち姿です

金沢八名木 「^{せいこうめ}西湖梅」

ウメ ‘ヤツブサ’ (梅 ‘八房’)


学名 *Armeniaca mume* (Siebold et Zucc.) de Vriese ‘Yatsubusa’

科名 バラ科

金沢八名木の一つ「^{せいこうめ}西湖梅」は白梅であるとされており、一つの花から
複数の実がなる「^{やつぶさ}八房」という品種であると考証されています。こちらの
木は同じ品種ですが赤花です。もう一つの白花の木とともに、この木は、
平成二十年(2008)区制60周年記念として^{こいしかわ}小石川植物園より譲り受けた
枝から^{つぎ}接木で増殖させたものです。




これは
紅梅
白梅もどこかにあるそうですね

A low-angle photograph looking up at the branches of a plum tree. The branches are dark and spindly, with many small, round, pink blossoms in various stages of opening. The background is a clear, bright blue sky with a few wispy clouds. The text is overlaid in the lower right corner.

かなり大きな
立派な木です

遅咲きのようで
まだ梢にちらほら



低いところで咲いているのを見つけました
一つの花から複数の実がなるとか
どうなっているのか
見に来たいものです



金沢区総合庁舎

泥亀公園は
区民は伸び伸びと出来るよう
広い芝生
周りにたくさんのベンチ


黒梅はあの親子づれの先にあります

芝生では
自転車乗りに挑んでいました

目の前で乗れるようになりました
親子4人大喜び


乗れるようになると
目に見えてうまくなっていました





庁舎建物の日だまりでは
楽器の演奏


気持ちよさそうな音色が
聞こえてきました



何やら由緒ありげな花
八銘木の中に
あと2本の梅がありました
そのうちの1本かな



そのお隣の一本
似ているようですが
何となく違うような

A vertical wooden post, likely a remnant of a signpost, stands in the center of the frame. It is surrounded by several trees with thin, light-colored trunks and sparse green and yellowing leaves. In the background, a grey metal fence is visible. The scene is brightly lit, suggesting a sunny day.

説明板が付いていたと思われる柱が

この公園の開園時に
ハ銘木のうち7本はあったそうですから・・・

金澤発展の礎

この辺りは、江戸時代「内川入江」と呼ばれた内海でした。いくつかの新田開発により今は土地になっていますが、最も大きな新田開発が「泥亀新田」です。江戸湯島聖堂の儒官を辞めて金沢に移り住んだ永島祐伯(号:泥亀)が、寛文8年(1668)に走川(現寺前)と平潟(現平潟町、乙船町)に新田を作りました。完成した新田は、祐伯の号にちなんで「泥亀新田」と名付けられました。さらに天明6年(1786)には内川入江全域が埋め立てられ「金沢入江新田」と命名されました。これらの新田は津波や洪水等による荒廃と復旧が繰り返され、永島家代々約180年に及ぶ苦闘の末、嘉永2年(1849)に完成しました。明治以降、走川・平潟・入江の三新田を合わせて「泥亀新田」と呼ばれるようになり、町名として残りました。現在の泥亀一丁目・二丁目辺りで、官公庁や大型商業施設がある金沢区の中心地です。

でいきしんでん 泥亀新田



金沢区役所
NPO法人 横濱金澤シティガイド協会

金沢にかつて存在した八本の名木

金沢八名木とは、金沢にかつて存在した八本の名木を指します。

称名寺の

青葉楓（あおばのかえで）、西湖梅（せいこうめ）、黒梅（くろうめ）、
桜梅（さくらうめ）、文殊桜（もんじゅざくら）、普賢象桜（ふげんぞうざくら）

瀬戸神社の


蛇混柏（じゃびゃくしん）

雀が浦（すずめがうら）の

一本松（ひとつまつ）の八本です。

これらの名木は、現在、原木はすべて絶えていますが、金沢の歴史や文化を象徴する重要な存在であり、現在も復元を目指して植樹活動が行われています。

とのことです

A photograph of a park scene. In the foreground, a branch with many small red flowers (likely cherry blossoms) is in focus. The background shows a large, modern building with many windows, a paved area, and some trees. A few people are visible in the distance.

見に行つてよ！見に行つてよ！
熱心に勧められました

来てよかった
いい目の保養になりました

次は「八房」の実を見るのと
残りの6銘木探し
楽しみができました